

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人千鳥会	代表者	吉村秀樹	法人・事業所の特徴	要介護度や事業所都合での支援内容の制限、調整は行っていない。 登録制で通い・泊り・訪問については限度額がない小規模多機能事業所であるかこそ、例え軽介護度の利用者であっても必要な方に必要な支援を行っている。 事業所の定員や体制に応じてではあるが、相談に対し、できることを提案しながら利用者家族と一緒に悩み考えていく事業所でありたいと考えている。
事業所名	小規模多機能型居宅介護事業所ほほえみ	管理者	池田英生		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	0人	1人	0人	1人	1人	1人	3人	0人	8人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	生活支援に重点を置きながらも、次年度はその人らしい過ごし方についても取り組む予定。 具体的な余暇活動の担当を設けていく。	1年間、勤務配置のなかで余暇活動係を設ける。 ご利用者個人に沿った余暇活動とグループに対しての余暇活動を行う意識が高まった。	日々、支援内容が多岐に渡る地域の事業所として柔軟かつ丁寧に活動している。 しかし、一方で訪問も含め多様な生活支援を行う職員全職員に倫理観が共有できているかが大切であり課題でもある(社協 森様より)。	支援内容が多岐に渡る事業所として独自の倫理観を共有していくことを目標とする。具体的には今年度のスローガンを作成。 毎朝のミーティング時に唱和して日々、浸透していけるようにする。またご利用者のこれまでにあらためて個々に尊敬の念を抱くことができるよう、ご利用者ご家族の協力のもとこれまでの人生観を学ぶ勉強会を2か月に1回開催する。
B. 事業所のしつらえ・環境				
C. 事業所と地域のかかわり	次年度も地域へ事業所発信にて他施設協同で、認知症予防教室や介護技術講習会を開催予定。より地域との結びつきを深くしていく。	他施設協同で東浦地域に向け、第2回地域介護講座を開講。その中で実務から経験したことを参加者である地域住民に還元できた。 延べ参加者は80名近くが参加。	ほほえみという事業所については場所や取り組みは地域の方も認識されつつある。 事業所に入りやすい雰囲気となっている。	
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み			一人暮らしの会食会など、ご利用者の参加に加え、職員が参加することで理解を深める機会ともなっていたのでは。	

項 目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
E. 運営推進会議を活かした取組み				事業所での防災訓練に加え、淡路市や地域の訓練時に同時に事業所としても訓練を開催、参加を行う。
F. 事業所の 防災・災害対策	次年度、自治会である畠田地区防災計画を作成予定。 その中に事業所も含めた討議をしてもらい、訓練等を実施の際は合同に行えるなどしていく。	施設内では津波・火災訓練含め防災訓練を実施。 淡路市の訓練は岩屋地区で実施。 その際に合わせて開催や合同・参加はできなかった。	ほほえみは要援護者の避難場所にもなっている。 地域も事業所に手助けできるかどうか（町内会長岸下様より）。	また長期的な視点で、自治会との防災訓練を実施できるようにしたい。 そのためにも専門性も活かし、運営推進会議委員の方々に協力も頂きながら今後とも地域との関係を深めていく。